

龍 灯

第 8 号

発行所 大阪市史跡 龍溪禪師墓所
 霊 亀 山 九 島 禪 院
 〒550 大阪市西区本田3丁目4-18
 ☎06-583-2725
 発行人 住 職 奥 田 啓 知 (智證)

老年もまた楽しい

高齢者アイドル登場

きんちゃんきんちゃん

「きんは百歳、きんも百歳」と

言えば、この年末年始、ブラウン管に登場し、あっという間に「双子のおばあちゃん」です。目も耳もお達者で、屈託のない笑いがテレビCMに異彩を放っています。まさに超長寿社会のめでたさを語るお二人でしょう。長寿といえは、奈良時代から明治時代にかけて最も長生きした階層は僧侶で、特に禅宗の僧侶が最も長命であったと、福島県立医大、森一教授が報告されています。

歴史辞典、仏教辞典などから著名な公卿・武士・僧侶の死亡年齢を調べた結果、各階層の平均死亡年齢は僧侶は六十八・六歳でトップで、ついで武士の家臣(六十四・七歳)▽公卿(五十・八歳)▽藩主(四十八・三歳)の順であったそうです。また、奈良時代以降の著名な全僧侶二千二百九十四人の死亡年齢を宗派別に比較したところ

各宗派の平均死亡年齢は黄檗宗が七十四・二歳でトップ、二位が臨済宗の七十三・四歳、三位三派が上位三位までを占めたと発表されています。

フランスの作家であるアナトール・フランスの随想集「エビクロスの園」の中には、次のような話がでてきます。

ある精が一人の子供に一つの糸まりを与えて言う。
 「この糸はお前の一生の日々の糸だ。これをとるがよい。時間がお前のために流れてほしいと思う時には、糸を引っ張るのだ。糸まりを早くたぐるか永くかかってたぐるかによって、お前の一生の日々は急速にも緩慢にも過ぎていくだろう。糸に手を触れない限りは、お前は生涯の同じ時刻にとどまっているだろう。——子供はその糸を取った。そして、大人になるために、それから愛する婚約者と結婚するために、それから子供たちが大きくなるのを見たり、



職や利得や名誉を手に入れたり心配事から早く開放されたり、悲しみや、年齢とともにやってくる病気を避けたりするために、そして、最後、悲しいかな、厄介な老年にとどめをさす為、糸を引っ張った。その結果は、子供が精の訪れを受けて以来、四か月と六日しか生きていなかったという。

長い引用になりましたが、人生というものを、本当に生きるに値する日々を計算すれば、四か月と六日、すなわち百二十六日しかない。・・・というわけなのです。

この寓話は、絶えず現実を否定しながら生きている私たちに日々を大切に、毎日毎日を精一杯生きる大事さを語っているのではないのでしょうか。

禅語に「日々是好日(にちにちこれこうにち)」があります

